

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギべと病の二次感染株の発生を抑制するための防除対策の徹底について

べと病については、注意報第 5 号（令和 3 年 3 月 4 日付け）を公表し、注意喚起を行ってきたところですが、3 月 15～17 日の調査で、二次感染株が広域に発生していることを確認しました。3 月以降、本病に感染しやすい気象条件が断続的に出現していることから、今後、さらに発病が増加する恐れがあります。については、下記を参考に、防除対策を徹底してください。

記

1. 発生概況

- (1) 令和 3 年 3 月 15～17 日に、県内のマルチ栽培 10 圃場（早生品種）を調査した結果、平均発生株率は 4.0%で、平年よりやや多かった（表 1）。10 圃場中 8 圃場で、二次感染株がみられた（写真 1）。
- (2) 同日に、県内の露地栽培 10 圃場（中晩生品種主体）を調査した結果、平均発生株率は 1.2%と平年並であった（表 1）。現時点では、一次感染株の発生が中心であり、一部で多発生圃場を確認した。



写真 1 二次感染株
(令和 3 年 3 月 15 日)

表1 県内各地域におけるタマネギべと病の平均発生株率

調査年	マルチ栽培圃場			露地栽培圃場			
	3月下旬	4月上旬	4月下旬	3月下旬	4月上旬	4月下旬	5月上旬
	%	%	%	%	%	%	%
令和3年	4.0			1.2			
平年	1.2	22.3	18.5	0.7	17.2	20.1	26.6

2. 気象推移に基づく今後の発生予想

【これまでの状況】

- ・気象解析の結果、本病の感染・準感染好適気象条件が、2 月 20～22 日頃に出現した。主にこの時期の感染が、約 2～3 週間の潜伏期間を経て、3 月上旬以降の発病につながったと考えられる（表 1）。

【今後の予想】

- ・感染・準感染好適気象条件が 3 月 4～5 日、13～14 日頃にも出現したことから、約 2 週間の潜伏期間を経て、今後、発病が増加する可能性がある。
- ・福岡管区气象台が 3 月 11 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報では、天気は数日の周期で変わると予想されている。このため、感染に好適な曇雨天が出現した場合は、さらなる感染が助長されると予想される。

3. 防除対策

一次感染株は周囲への伝染源となるため、早急に抜取りを行う。また、最新の気象予報や図1を参考に、薬剤による予防散布を徹底する。防除対策の詳細については、令和3年3月4日付け病害虫発生予察注意報第5号（タマネギべと病）を参照する。

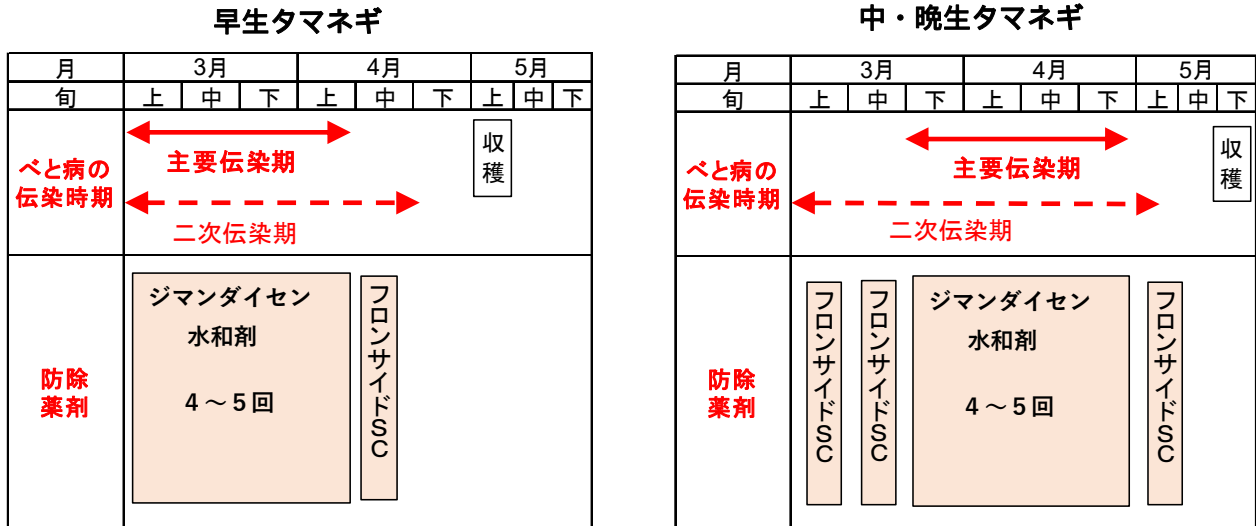


図1 タマネギべと病の伝染時期と薬剤防除体系（例）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5042

